



野比中だより

絆 きずな
—響き合いを大切に—

横須賀市立野比中学校

〒239-0841

横須賀市野比4-4-1

tel:046-849-3318

Fax:046-849-3791

マナーを守る

6月13日、昨年に引き続き、横浜サワディーブリッジの方を講師にお招きし、2年生対象にマナー講座を実施しました。



2年生のこの時期にマナー講座を行うのは、2年生はこの後キャリア教育の一環で近隣の商店や企業へ出かけ、職場体験をお願いする予定があり、その前段階としてビジネスマナーを体験的に学ぼうという意図があります。初めて出向く事業所での応対マナーを中心に体験的に学ぶ機会となりました。

3年生の皆さんにとっては、「あ～、そういえばそんなことやったなー」という感じでしょうか。



まずは笑顔のあいさつから

佐野先生のお話を伺っている中で、「マナー」について改めて考えてみました。

よくよく考えてみると「マナー」には決まりはないということに気が付きました。例えば



食事の風景を思い出してみてください。

「唐揚げ」のようなものを食べようとしたとき、フォークならば「突き刺して」使うと思います。でももともと、日本ではお箸を使いますけれども、お箸はフォークのように「突き刺して」使うのは行儀が悪いとされます。お箸は2本の箸でつまむようにして使うのが通常です。スープのようなものを飲むときには、お皿からスプーンですくって飲みます。お皿に直接口をつけるのは行儀が悪いこととなりますが、日本でみそ汁のようなものを飲むときには、お椀に直接口をつけるのは一般的です。またおそばを食べるときには、日本人なら「ずずずーっ」と音を立ててすするのが一般的ですが、欧米では音を立てて食事するのは行儀が悪いこととなります。

マナーというのとは少し違いますが、最近では「咳エチケット」のようなこともあります。つまり「マナー」は国や民族、文化や時代のそれぞれの習慣で形式がかなり異なってくるのです。そこで大切にしたいのは、「相手の立場になって考える」「相手を大切に想う」ということなのです。

相手のことを大切にすることこそ、相手に対して丁寧な対応を心がけます。人とかがわったときに、お互いに嫌な気持ちが残らないということがポイントです。

友好の花 咲きました

5月7日に地域の皆さんに植えていただいた「友好のひまわり」がだんだん咲き始めました。ひまわりを植えたので、もっと大きくなるのかなと思っていましたが、最近は背の低いひまわりがあるのですね。



友好のひまわり

「花が咲く」といえば、思い出すのは、東日本大震災の被災地及び被災者の物心両面の復興を応援するために制作されたチャリティーソング「花は咲く」を思い出します。オリジナル版のみならず、多くの人がカバーしており、皆さんも聞いたことがある曲の一つにあると思います。震災に関わる人々の想いが、ずんと染みる曲で、私の好きな曲の一つでもあります。

改めてこの「咲」という字についてどんな意味があるのかを調べてみました。

まずは「花が開く」という時に使う意味です。確かに花びらが開いた状態が「花が咲く」ということですね。

二つ目の意味に、「笑う」というものがあるそうです。もともと「笑」の古字とされていた節があるようです。

そうして考えると、「咲」には、人々の想いが「花として咲く」というイメージであったり、「笑う」ということから、花が咲いて周囲の人々を笑顔にする＝周囲の人々を幸せにすることができるというイメージが浮かび上がってきます。

梅雨明けを思わせる今日この頃、海ではウインドサーフィンやヨットが帆を満開にしている風景に出会います。「友好のひまわり」も間もなく満開を迎えるでしょう。満開の花に合わせて野比中生の笑顔もひろがるといいですよ。「友好のひまわり」を眺めながら、ふとそんなことに思い当たりました。

保護者の皆様へ

○夏季休業期間中の学校閉庁日について

教職員の適切な休息日の確保のため、夏季休業期間中の8月8日(火)、9日(水)、10日(木)、14日(月)の4日間を学校閉庁日とします。

- ・ 学校閉庁日は、原則として教職員は出勤しませんので、学校への来校や電話連絡は、ご遠慮くださるようお願いいたします。
- ・ 上記学校閉庁日においては、緊急性のある内容(児童生徒に関する事件・事故等)の場合に限り、以下の緊急連絡先にお電話をお願いいたします。

<学校閉庁日における緊急連絡先>

046-822-9709

(横須賀市教育委員会 教育政策課)

※ 電話対応可能な期間及び時間は、次のとおりです。

8月8日(火)、9日(水)、10日(木)、14日(月)
各日とも、午前8時30分から午後5時15分まで
※電話番号の掛け間違いにはご注意ください。

あなたが好き 私が好き 横須賀が好き と誇れる人づくり